様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　４月２０日現在

機関番号：３３９０６
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０３２０１２９
研究課題名（和文）　大規模開発に伴う中国の都市近郊地帯における地域再編

研究課題名（英文）　Local Restructuring in Chinese Suburbs Accompanying Large-Scale Development

研究代表者
季　増民（JI　ZENGMIN）
椙山女学園大学・文化情報学部・教授
研究者番号：２０２７８２３７

研究成果の概要（和文）：
本研究は上海大都市圏を主な研究対象地域に、衛星画像の解析、役所でのヒアリング、現地踏査に基づき、都市近郊で発生する地域再編の全体像を把握した。調査地域選定作業により、開発区（工業団地）と新市街地（住宅団地）の２つの代表的な類型として無錫、昆山の両市を抽出し、その共通性と異質性について比較検討した。
学術理論においては、社会構造の多元化に対応して近郊地域を「第三の空間」として設定することにより、都市と農村という二元的な枠組みでカバーできない多元的な地域構造を解明できるとの知見を得、その存立基盤について考察した。

研究成果の概要（英文）：
The present study utilized the results of satellite-imagery analysis, interviews with local government officials, and on-site surveys in an attempt to form an overall picture of the local restructuring taking place in the suburbs of Chinese cities. It focused on the Shanghai area, specifically the cities of Wuxi and Kunshan, judged to be typical examples of the two representative types of areas undergoing restructuring: “development regions” (industrial districts) and “new urban areas” (residential districts). The study examined the similarities and differences in the restructuring processes occurring in the two locations.
Regarding the theoretical basis for the study, we acknowledged the increasingly complex, multidimensional structure of Chinese society by positing the existence of a distinct “third space”, namely the suburban district. We realized that this would allow our analysis to go well beyond what could be achieved using the conventional two-dimensional (urban/rural) concept when examining the multidimensional structure of local society. We then looked into the bases for the existence of this “third space” as part of the study.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2008 年度 | 4,800,000 | 1,440,000 | 6,240,000 |
| 2009 年度 | 4,000,000 | 1,200,000 | 5,200,000 |
| 2010 年度 | 4,200,000 | 1,260,000 | 5,460,000 |
| 総　計 | 13,000,000 | 3,900,000 | 16,900,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：都市化 、地域再編、生活再建、社会分化、国際貢献、第三の空間

１．研究開始当初の背景

高度経済成長に伴い、中国の都市近郊地帯は、土地利用や景観、社会構造、生活様式が激変し、中国社会が抱えている都市と農村、沿海地域と内陸部の格差、「三農問題」などの諸問題がせめぎあう最前線に変わった。変動の過程や結果が集中的に投影されている近郊地帯について、地域再編という視点に立ち、実態解明から整備方針の提示にいたるまで総合的に考察することが求められている。この近郊地帯の実態解明は、沿海地域を中心とする中国の社会的・経済的・地域的・文化的変容の特質を理解することにつながる。

２．研究の目的

本研究では、都市化が著しい上海大都市圏を調査対象とし、近郊地帯における地域再編のプロセス、その地域的特質と課題の分析により、土地利用・農民の都市化の実像を明らかにすることを目的とする。あわせて、住民社会組織のあり方や地域整備の方策について提言する。

３．研究の方法

（１）本研究では、RS・統計資料・現地踏査のフィードバックを繰り返しながら、近郊地帯の市街地側と農村側の境界の画定方法、その定量指標を確立していく。長年の蓄積のある無錫市でのテストを経て、上海大都市圏全域にそれを適用し、検証したうえで、画定指標の数量化を図る。また、現存の土地利用分類を見直し、近郊地帯の実態に適合した土地利用細分類の項目を明らかにする。

（２）近郊地帯の実態を浮かび上がらせるために上海大都市圏、開発区、社区・村、集落（組）、農家のようにマルチスケールで重層的に探った。

（３）本研究では住居という、ニューカマーの定着過程の軌跡および経済的、社会的地位の変化を映し出す「鏡」に着目し、生活者としてのニューカマーに焦点を正面から当て、「居処の定まらぬ者」から定住者へ変わっていく過程およびそのパターンの解明、その定着に影響する要因の分析を行った。

４．研究成果

（１）上海大都市圏を主な研究対象地域に、衛星画像の解析、文献と資料の分析、役所でのヒアリング、現地踏査に基づき、都市近郊で発生する地域再編の全体像を把握した。調査地域選定作業により、開発区（工業団地）と新市街地（住宅団地）の２つの代表的な類型として無錫、昆山の両市を抽出することができた。類型が確定した後、研究目的に沿って南京、無錫、昆山、上海、長春、ハルビン、青島などで現地調査を実施した（20 年 5 月、8 月、9 月、10 月、21 年 3 月）。

具体的な成果として、①無錫、昆山の両市について、1984 年、1998 年、2004 年、2008 年 4 年次の衛星画像と土地利用図を用いて、市街地の外延的な拡大、近郊地帯の境界の変化を把握した。次に代表的な地域について目視による土地被覆、土地利用、景観の変化を確認した（20 年 5 月、8 月、9 月）。

②開発区（工業団地）と新市街地（住宅団地）の造成を中心とする近郊地帯について、農地や宅地収用の有無や開発熟度・開発区と新市街地までの距離などの外的要因、集落の立地条件・職業構成・収入構成・風土・生活・文化などの内的要素に基づき分類し、各類型の特徴を明らかにした。

③鎮から街道・村から社区への移行パターン、都市住民分譲住宅団地へのホワイトカラーニューカマーの混住や農民住宅団地へのブルーカラーニューカマーの混住パターン、農地や宅地から完全に追われたグループとそうでないグループに分けて、それぞれの特徴を確認した。

（２）土地利用グループは、主として近郊地域範囲伸張の位置・面積、そのパターン（同心円型、道路沿いのリボン型、飛び地型など）について正確に把握した。近郊地域の境界を画定するに当たって、鎮（街道）・村（居民委員会）・組（集落）といった地域単位の妥当性について検証した。

社会学グループは、昆山市南部の張浦鎮で元農民や農村幹部に対し農村集落の社会（家族(世帯)構成、親族とその交流関係、育児と教育、養老、就業者と就業内容、世帯収入、近隣関係、参加組織）についてヒアリングとアンケート調査を実施した。その成果は後記の雑誌に発表されている。

（３）無錫市と昆山市について横並びでフラットな関係で比較検討し、都市拡大パターンの共通性と異質性を明らかにした。

具体的に、まず無錫市と昆山市全域について横断的な比較を通して地域的・経年的特色について整理し、ニューシティー型と開発区型のそれぞれの特徴を一層際立たせた。住宅中心の開発行為と工業主導の開発がどのように地面に投影されているかを 4 年次、4 象限に区分して定量的に分析した。

次に全市域から郊外地域を抽出し、その拡大過程を明らかにしたうえで、そこにおける土地利用の変化を水域、農林用地、都市的用地の構成比から定量的に解明した。

2010 年 8 月、全員は南京師範大の協力者とともに南京、南通、昆山で現地調査とヒアリングを実施した。代表者は 22 年 5 月、7 月、9 月、23 年１月、３月に訪中し、昆山市役所

へのヒアリングのほか、群益社区住民 100 人に対しアンケート調査と聞き取り調査を実施した。

学術理論においては、近郊地域に関する分析を進めるなかで、社会構造の多元化に対応して近郊地域を第三の空間として設定することにより、都市と農村という二元的な枠組みでカバーできない多元的な地域構造を解明できるのではないかとの知見を得ることができた。その具体的な内容は後記の著書「中国近郊農村の地域再編」芦書房で述べられている。

（4）近郊地帯における民工と地元社会との「横型」つながりから見ると、両者の間に相互依存の関係が存在することがわかる。たとえば、地元農民が提供する低家賃の貸家は低いコストで求職活動を行う民工にとって魅力的である。地元住民にとっては、空き屋や余っている住宅の活用を図る上で、民工は上客である。昆山市の場合、家賃の収入は地元農家の収入の 20%以上を占めている。また、民工同士のネットワークを通じた借家人の紹介により高い入居率が確保されている。

また、流動性の高い民工にとって、入居の際、仲介機構を通す必要がなく、手続きが簡単で管理も緩やかであるという農家経営の貸家は好都合である。

職業においては、民工は地元住民がやりたがらない農業や３K の仕事を引き受けるため、移住先の労働市場では欠かせない存在となっている。民工の存在によって地元住民は地の利を活かした不動産賃貸業や製造業に安定的に従事することができる。このような民工と地元住民による職業のすみわけは第三の空間の存立と持続に大きく寄与している。

地元政府にとっては、地元農民が行政に代わって大量の民工のための低家賃住宅を提供し、治安などの面で民工を日常的に管理してくれているため、本来負担すべき人件費や建設費などの行政コストを大きく節減できる。また、民工相手の貸家、飲食店、雑貨店、浴室などの経営は離農した地元農民に少なからぬ収入をもたらし、近郊地帯の社会の安定に寄与している。

民工は地元農民と生活をともにするなかで、都市文明の薫陶を受け、農民の小生産の自由・散漫性を徐々に変えていく。一定の錬成期間を経て、準市民、市民へと同質化していく過程で、この第三の空間は重要な準備の場であるといえよう。

以上のように、都市と農村にさまよう地元農民・故郷と移住先を行き来する民工が集中する、いわば特有の地域的特性から、第三の空間は各種の社会的、地域的矛盾を背負わされているといってよい。

（5）高度経済発展につれて各種の社会問題が噴出したため、中国政府は経済格差、社会格差を是正する必要に迫られている。その対策として打ち出されているのは「調和の取れた社会」の実現である。そのカギを握るのはいわゆる三農問題（農業、農村、農民）の解決である。その実現のため、都市化の拡大と新農村建設の双方から対策を進めていくことが求められている。その結節点にあるのが「民工問題」である。これを地域問題に置き換えれば、都市と農村に跨り、かつそこの住民である地元農民と民工の市民化が急がれる。すなわち、この第三の空間の地域整備の問題である。

第三の空間（近郊地帯）の行く末を展望するとき、経済や収入など生産重視から生活や生活圏整備の重視への発想転換が何より重要である。戸籍制度の廃止、就職の自由化により地の利に基づく既得権が段階的に消失するのを受け、出身地や出自を問わない地域づくりを進める必要がある。住民が平等なスタートラインに立ち、各自の努力によりワンランク上の生活を目指すことができるような環境を官民共同で整えていく。こうすれば、救済に依存しない自立的な生活圏が確立され、この第三の空間に暮らす住民はすべて新市民という資格で平等な幸福を追求する権利が与えられる。

上海や北京など大都市近郊での実現の可能性は低いが、昆山市のような中小都市での実験が効果的である。

（6）以上述べてきたように、本来、自然発生的に存在するはずであった都市と農村に跨る境界地域は 1958 年から戸籍制度によって人為的に閉鎖され、1980 年代末まで長期的に固定化されていた。1980 年代末から、このような不公平さ、不合理さを撤廃しなければ、社会の進歩があり得ないという巨大な圧力の下、都市と農村の地域交流が生まれ、その場としての近郊混交地帯が存在感を強め、範囲も次第に広がりつつ、社会構造の変化に対応していた。さらに 1990 年代には、民工の大量発生と流動という社会経済状況の変化によって、必然的に近郊混交地帯から中国の現段階の社会発展に対応した第三の空間（近郊地帯）が誕生したわけである。もちろん都市と農村の二分法の視点に立てば、この第三の空間は現在の転換期における過渡的な段階に過ぎないかも知れない。しかし、第三の社会に対応した第三の空間という地域概念を提起することにより、従来の二元的な研究の枠組みでは捉えられない、かつ解きにくい課題に新たな視角を提供できよう。

民工の社会的特徴に着目し、すでに第三元の社会群体に関する社会学、経済学、人口学的視点から数多くの研究が行われている。こ

れに対応し第三元の社会群体が暮らす生活空間を第三の空間として設け、地理学、地域計画学的立場からその地域的特性を研究することが求められている。つまり、第三元の社会群体という社会区分に対応した、第三の空間という地理区分と地域整備計画があってしかるべきである。

社会学では民工を都市社会の中下層に位置づけて階層という縦型の視点で検討している。これに対し地理学では第三の空間における民工の生活圏という横型（出身地と流入先とのネットワーク、域内における地元住民とのつながりや融合など）の分析が中心となろう。

その際は、統計データに基づき、市、区（県）、街道（鎮）、社区（村）といったマルチスケールでの分析がもちろん重要であるが、住宅棟や住宅内などミクロレベルでの実態調査、生活圏や交流圏といった「横型」の研究も不可欠である。

さらに地域計画の見地で見ると、不安定で対立な二元空間、すなわち都市空間対都市空間に「汽水域」のような第三空間を設けることにより、持続的発展が可能であり、都市と農村が融合する社会と地域構造が必然的に生まれるだろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

季増民、都市近郊農民の生活再建、椙山女学園大学文化情報学部紀要、査読無 Vol.10.2011, 1-16.

土居晴洋，無錫市の都市開発と周辺農村地域の変化，大分大学教育福祉科学部研究紀要，査読有，33巻，2011，1-16

季増民、活発な開発に伴う都市近郊における土地利用の変化、椙山女学園大学研究論集（社会科学篇）、査読無、No.42, 2011,pp. 19-46

季増民、地域開発の進展と農家の対応―中国・昆山開発区の隣接地域を事例に、椙山女学園大学研究論集（社会科学篇）、査読無、No.41, 2010,pp. 31-43.

季増民、1990年代に沿海部に移住したニューカマーの定着過程、椙山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、Vol.9.2010, pp. 1-17.

杨山，周蕾，陈升，季增民、大規模投資建設背景下城市過度拡張的約束机制（Constraint mechanism of excessive urban spatial expansion in the context of large-scale urban construction investment-A case study of Wuxi）in Chinese、地理科学进展（progress in geography）、2010、査読有、第29巻第10号、1193-1200

黒柳晴夫、中国東部沿海州における開発と人口流入－江蘇省昆山市における工業化と地域人口構成の変化の事例を中心に－、椙山女学園大学研究論集（社会科学篇）、No.41, 2010,pp.1-17.

黒柳晴夫、中国昆山市張浦鎮の聴取調査ノート、椙山女学園大学文化情報学部紀要、Vol.9.No.2、2010, pp.103-104.

黒柳晴夫、昆山市の開発の推進と農村社会の変容、椙山女学園大学科学研究費研究成果報告書、査読無、2009, pp.26-39.

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計１件）

季増民、芦書房、中国近郊農村の地域再編―江蘇省昆山市開発区隣接地域を事例に―、2010、355

（産業財産権）
○出願状況（計　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
季　増民（JI　ZENGMIN）
椙山女学園大学・文化情報学部・教授
研究者番号：２０２７８２３７

(2)研究分担者

黒柳晴夫（KUROYANAGI HARUO）
椙山女学園大学・文化情報学部・教授
研究者番号：80097691

土居晴洋（DOI HARUHIRO）
大分大学・教育福祉科学部・教授
研究者番号：４０１９７９９２

(3)連携研究者

研究者番号：